

令和7年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修

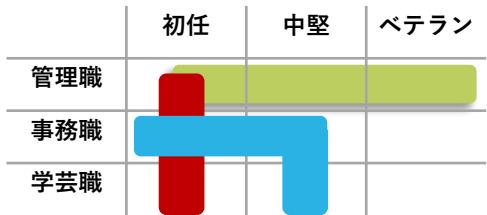
1 研修の趣旨

ミュージアムは文化の結節点として社会の豊かな未来を創造する力を持つ。多様な声が響きあい、新しい発見と創造を生み出す場として機能するためには、文化の価値と魅力を広く共有し、ミュージアムを取り巻く社会とのより良い関係を構築していくことが求められる。本研修は、パブリックリレーションズ（PR）を実現するための必要な知識・技術を習得し、その資質を向上させることで、これからに期待されるミュージアム活動を牽引していく人材を育成する。

2 研修の概要

主 催 者	文化庁
対 象 者	博物館に勤務する学芸員等専門職員
定 員	①現地参加（50人） ②講義科目配信視聴（500人/部分受講可）
実施期間	令和8年2月17日～2月20日（4日間）
実施場所	東京・湯島ファーストビル1F（地下鉄千代田線：湯島駅より徒歩5分） 及び配信の併用

※「施設見学」「グループ討議」の配信は無し。



ミュージアム・トップマネジメント研修

文化をつなぐミュージアム研修

ミュージアム・パブリックリレーションズ研修

3 日程とカリキュラム

2月
17日
(火)

09:45～10:00	開講式・ガイダンス
基調講演 10:00～11:00	明後日をひらくミュージアム・アートでつなぐ地域と未来 今日でも明日でもない、少し先の未来を地域とともに考えるアートとミュージアム。 本講演では、アーティストとしての実践と館長としての経験を踏まえ、ミュージアムの「明後日」をデザインするための視点を提示する。 東京芸術大学 学長 現代美術家 日比野 克彦
11:15～12:15	博物館の価値を社会に開く、共に創る 文化政策の変遷と現在地点について解説するとともに、「これからの博物館」がどのように社会に開かれ、地域の豊かさに寄与していくのか、文化政策のなかの方向性を示す。博物館が未来に向けて果たすべき役割と、その活動の在り方を考える。 文化庁 参事官（文化拠点担当）付 博物館支援調査官 中尾 智行
13:30～14:30	昼休憩
14:45～15:45	欧州の美術館における戦略的価値発信 欧州では、美術館が単なる展示の場を超え、社会に対してその価値や魅力を戦略的に発信することで、文化政策や地域社会に大きな影響を与えてきた。その戦略と「効果」について、欧州における美術館と社会との関係性からひも解いていく。 前 NTV ヨーロッパ 経営取締役社長 布施 優子
16:00～17:00	街と繋がる、街を創る 昆虫館が街と繋がる。「鳴く虫と郷町」の実践を通して虫の音を聴きながら秋を愛でる伝統文化を街の景色のなかに再生。街と繋がりながら魅力形成を仕掛けていく博物館活動とは。 伊丹市昆虫館 館長 坂本 昇
グループ討議	地域デザインに向けた取組と展望 自館における地域デザインのための取組と展望を参加者間で話し合い、自らの視野角を広げる。 文化庁博物館振興室

令和7年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修

2月
18日
(水)

施設見学

09:45～12:00

【東京都美術館】「とびラボ」の仕組みから考える活動のはじめ方

美術館と大学と市民が連携する「とびらプロジェクト」を題材に
ミュージアムで背景の異なる人同士が協働するためのプロセスを体験する。

東京都美術館 学芸員 熊谷 香寿美

東京藝術大学 芸術未来研究場 特任准教授 小牟田 悠介



「高知の恥」からの水族館再生

「おらんくの水族館」をキャッチフレーズに、地域との接点を増やす取り組みや、老朽化した施設を逆手に取る展示や体験、SNSを活用しながらユニークなイベントを仕掛けることで、地域の内外にファンを獲得した経営改革の実践に学ぶ。

桂浜水族館 館長 秋澤 志名



ミュージアムのコミュニケーションデザイン

社会との関係性のなかでミュージアムの価値を再発見し、発信と交流により利用者や社会の認識を変えるコミュニケーションデザインについて実践的に解説する。

キャンドルウィック株式会社 代表取締役 シルベスタ 典子



ミュージアム評価のさまざまな視点－評価はなんのために行うのか

評価学の基本的な概念を概観した上で、ミュージアムの使命の重要性を確認するとともに、様々な評価手法をみていく。併せて、グループ討論で検討する「ロジックモデル」について学ぶ。

合同会社 エ・バリュー 共同代表 佐々木 亨



グループ討議

10:00～14:30

ミュージアムのロジックモデル—作成

参加者が勤務するミュージアムを事例にして、「ロジックモデル」をワークショップ形式で作成し、発表する。作成の際には、当該ミュージアムの基本情報（使命・理念・ビジョン、最新の事業計画および評価報告書など）をグループ内で共有する。

佐々木 亨、文化庁博物館振興室

グループ討議

15:00～17:00

ミュージアムのロジックモデル—発表

同上

同上

2月
19日
(木)

10:00～11:00

美術館のSNSマーケティング戦略

公式からの発信だけでなく、来館者をひとつのメディアとしても捉え、多様なファン層にアプローチしていく戦略的なSNSマーケティングの展開に学ぶ。

洞田貫プランニングス 代表取締役 洞田貫 晋一郎



11:15～12:15

みんなでつくる博物館－デジタル時代の市民参画と記憶の共有

博物館が共創の場へと進化するにはどうしたらいいか。インターネットの普及は新しい展開を生んでいる。「記憶あつめるプロジェクト」など地域住民が主体的に関わり、記憶や物語を共有する取組を軸に「みんなでつくる博物館」の実現を展望する。

豊田市博物館 学芸員 山田 佳美



昼休憩

13:30～14:30

小規模機動的なミュージアム経営

財団立の博物館において、入館無料を貫く経営を支えるためのファンドレイジング戦略とは。ビル・ゲイツが訪れる、SNSの住人から支持される展示や広報、グッズ展開など多様なPR活動を知る。

目黒寄生虫館 事務長 亀谷 誓一



14:45～15:45

ミュージアムへの贈り物

ミュージアムのコレクションを充実し、その活動を充実させていく寄贈や遺贈、ミュージアムを取り巻く人々との信頼を得ていくためのコミュニケーションや必要な知識について学ぶ。

文化庁 企画調整課 建築資料調査官 山口 俊浩



16:00～17:00

まとめ

質疑応答、全体討議

参加者全員及び文化庁職員による質疑応答。

令和7年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修

4 応募フォーム 締切：2月10日（火）12時迄

<https://forms.gle/rf57WwvtcYxhaR63A>

5 応募に関する問い合わせ

令和7年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修 運営事務局
株式会社シード・プランニング内 e-mail : b_museum@seedplanning.co.jp

6 文化庁による本件担当

企画調整課博物館振興室
TEL 03-5253-4111（内線4772）

7 実施場所案内



[ビル名] 湯島ファーストビル
[所在地] 〒113-0034 東京都文京区湯島3-19-11
[交 通] 湯島駅 徒歩5分
末広町駅 徒歩5分
上野広小路駅 徒歩7分
上野御徒町駅 徒歩8分
御徒町駅 徒歩8分
仲御徒町駅 徒歩10分

